

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 日本国語教育学会

(代表者 桑原 隆 会員数 約2,900人)

T E L 03-6801-5951

1 前 文

現代文は、第1問・第2問ともに本文が難しいと言える。古典は、難易度としては妥当である。しかし、古文は問5の【ワークシート】の情報量が多く、漢文は問5～7で内容の重複が見られる。センター試験とは異なる共通テストの問題として、その在り方を検討する余地がある。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

- 第1問 意欲的だが【文章Ⅰ】は手塚治虫漫画に親しんでいる度合いで理解度が大きく変わるし、【文章Ⅱ】は語彙・論旨含めて晦渋。共に用語の定義・利用が曖昧で本文として適切かは疑問。
- 問1 問われている漢字・選択肢ともに全てが音読みなのは気になる。
- 問2 手塚治虫の引用を踏まえた、筆者の考えの整理で問題として妥当。
- 問3 誤答①は正答との差異が微妙なのではないか。
- 問4 【文章Ⅱ】の最初の問題で、図表補充の問題が出てくるのは奇異に見える。正答④は選べるが、選択肢と本文のつながりが見えにくい。面白い試みだとは思ふ。
- 問5 【文章Ⅱ】全体を理解していないといけないのでまとめの問題として適切だったとは思ふ。ただ文中の用語の定義・利用の曖昧さが目立ち、読めば読むほど混乱する。
- 問6 問題のレイアウトが受験者に解きにくいものとなっている。対話について、教師等のファシリテーションがないために、単なる意見の羅列となり、全体として意味をなしていたように見えなかった。【文章Ⅰ・Ⅱ】をつないだ上でのまとめとなる問題としてこれで良いかは疑問。
- 第2問 追・再試験としての難易度もあるだろうが、第1問同様本文が難しく、こうした作品に馴染みの薄い受験者にとっては厳しかったと思われる。問2～5まで各問題の選択肢がそれぞれ同じ構造で統一されるが、ここまでの統一は必要なかったのではないか。(特に問2・4・5は全て逆接)
- 問1 2022・2023年と同様に本試験とは出題形式が異なるものとなった。やや違和感を覚える。
- 問2 誤答④の誤りがわかりにくい。
- 問3 各選択肢に正誤を判断する材料が乏しく、微妙な違いを見極めるだけの問題になっている。
- 問4 如上の通り。選択肢が全て逆接、「～と捉え直し」、「～に感じている」の構造で顕著。
- 問5 誤答①と正答③の選択肢が近く、微細な選択肢の違いを見極めるだけの問題になっている。
- 問6 特に(i)について、小説で「時間の流れ」は尋ねられないことが存外が多く、こうした形で問われること自体は良いが、本文と選択肢を吟味・往還する必要があるが時間がとられる。
- 問7 生徒Qは表現、生徒Rは内容とそれぞれ注目した箇所も異なる上、単なる「自分の考え」を粗放的に記したもので、これらの比較に関し新傾向の問題として積極的な意義を見出せない。
- 第3問 文章が長く、読解に時間がかかる分、問いが易しくなっており妥当である。中世の作品でも中古的な擬古物語が多かった中で、いかにも中世的な語り物・浄瑠璃を素材とした点が評価できる。共通一次試験からセンター試験の時代には中世・近世の作品が多く出題されていたこともあり、共通テストにおいてももっと中世・近世からの出題があっても良い。読みづらく手数がかかると感じた生徒もいただろうが、(注)の数が少なく焦点が定まりやすい分、本試験と比べて

特に難しいとも言い切れない。

問1 妥当。(ア)知識を応用して解答できる。(イ)この時代の語り物によく出てくる表現。

問2 旧来型の文法と内容解釈の問題で、「語句と表現に関する説明」とは言い難い。

問3 特に平易であるが、本文が長い分、妥当である。後半を解く手がかりになる。

問4 読解を求められている③段落が長い割には、誤答の根拠が一語である。選択肢に工夫の余地があるのではないか。

問5 資料の素材自体はおもしろい。しかし【ワークシート】には「教師のコメント」のような unnecessary情報も含まれており、限られた解答時間の中で受験者は混乱したであろう。教室での学習場面を想定するにしても、他の形でも有り得る。(i)会話文の単なる解釈にとどまっております、設問として工夫が足りないか。(ii)誤答②は②段落を読むと正解と取れなくもなく、「家族」という語の使い方についてもやや疑問である。

第4問 センター試験と同様の形であり、昨年度の追・再試験出題の日本漢文と比べると目新しさはない。後半の問の内容の重複を考えると、共通テストの出題としては素材文そのものがやや材料不足に近い感が否めない。(注)1はヒントになっており、先に(注)を読むという受験テクニックを助長する可能性がある。獄死したことがわかる資料を読ませるなど工夫もできたのではないか。

問1 妥当。(イ)のような出題は今後も期待する。

問2 1段落の大意把握で妥当。語句「而已矣」を表に出さない形で問う点も評価できる。

問3 良問。句法の知識だけでなく、文脈を読むことが求められる問になっている。

問4 「彼」「人」を問うのは良いが、選択肢が適切ではない。「竜」と「平凡な人々」という、カテゴリーが異なるものが対になっている。また(注)11をヒントとして解答ができる。

問5 本試験との対応を考えると返り点と書き下し文の出題は妥当であるが、漢文特有の句形「豈～哉」の知識を問うているわけではないので、出題意図が疑問である。

問6 比喩を読み取れば、選択肢に紛れはない。ただ、傍線部が長い割に、(注)を読めば解答でき、設問がもの足りない。解釈問題という点で問3と重複する上、問5・問7との内容の重なりが大きく、問いの設定に疑問が残る。本試験と合わせて1問少なくし、配点を重くしても良かったのではないか。

問7 妥当。全体を捉える意味で、必要な問いである。

3 総評・まとめ

問題冊子全体で50ページというのは、本試験と同様、分量がかなり多い。減らしてほしい。

4 今後の共通テストへの要望

たとえば古文では、共通テストの問題作成方針にある「場面設定を工夫する」に縛られて、方針ありきの【ワークシート】を作った感が否めない。真面目に読んだ受験者が混乱するような、余計な情報の提示は避けていただきたい。